東大阪

発行所
株式会社 東大阪新聞社
第7022号
〒577-0802
東大阪市小阪本町1-1-7
エフエスビル2F
TEL 06-6720-4601
FAX 06-6720-4603

八尾柏原支社
〒581-0013
八尾市山本町南6-2-29
TEL 072-926-5134
FAX 072-921-6893

東大阪・八尾
柏原の地域紙
購読ご希望の方はお気軽にお電話下さい

おかげさまで90年
東大阪新聞は令和4年に
創刊90年を迎えます

# 工業デザインの世界

## 町工場からメーカーへの転身

モノづくりのメッカと呼ばれる東大阪、東洋のマンチェスターと呼称された大阪市港区・大正区の工場群、ともに日本を代表するファクトリーシティだ。

株式会社コボの社屋ビル前で全員集合

山村真一社長

## イタリアにデザイン留学

### 経営・技術・デザインの奥義学ぶ

中でも東大阪は様々な業態の変遷を経て、国内でも有数の町工場集合体といえる。東大阪の町工場は年々減少しつつあるが、総数は5900社を超える。

この中には自社ブランド商品を製造販売するメーカーも数多いが、ほとんどが下請け構造に組み込まれた町工場だ。日本の町工場のQCD（品質・コスト・納期）は世界最強だ。発注元から指示された仕事は完璧にこなしていくが、逆に提案することはほとんどない。中小・零細企業でも技術というハードの集積がある。あとは独自に工夫してソフトを加えていけば市場開拓の道は開ける。手をこまねいている場合ではない。市場環境が厳しいのはいつの時代も同じこと。デザイン思考をモノづくりのヒントに、新たな市場を生み出すチャンスは目の前にある。ただ、町工場がみなメーカーになれるわけではないし、またなりたいと考えているとは限らない。

工業デザインの世界では著名な山村真一さん（株式会社コボ代表取締役社長）がモノづくりの東大阪に新しいデザイン旋風を吹き込んでいる。

山村社長は1961年（昭和36年）三菱重工業入社、商品企画部に配属される。ロマンのある企業で、航空機・自動車・船舶など多様なデザインと取り組みたいと考えていた。イタリア・デザイン会社イタル社へのデザイン留学を自ら交渉し、社費による留学が認められた。有名な工業デザイナー、ジョルジェット・ジウジアーロ氏はイタル社設立のメンバーだ。

留学期間は1964～1966年の3年間、ジウジアーロ氏からデザインスピリットを学び、経験豊かなデザイナーからデザイン経営や、技術とデザインの奥義を学んだ。

帰国後は三菱自動車チーフデザイナーとして、ギャランFTO、ランサーなどの企画・デザインを手がけた。

1973年株式会社コボを設立、「地域の中小企業を元気にするプロジェクトを手がけていきたい」をコンセプトに、現在まで多くの実績を残している。東海地区・新潟燕三条・北陸、遠くは北海道まで多くのプロジェクトが進行中だ。

山村社長は常々「デザイナーはロマンチストでなければならない」と語り、また「デザインは現場を良く知ることが一番大切、デザインは現場から生まれる」をポリシーに掲げている。

2020年初頭より「町工場を工業デザイン思考で体質改善」をコンセプトに、町工場を下請け構造からメーカーへの転身が進行中だ。東大阪（金物製作）・港区（切削加工）の2社がメーカーに挑戦中であり、さらに東大阪の2社が鋭意検討中だ。

東大阪から世界に羽ばたくメーカーにエールを送りたい。

（小川秀人）

**株式会社コボ**
社長　山村真一
名古屋市昭和区川名本町2-58-4
TEL 052-763-7166

---

風を読む 33

# 2021年 世界の動き

大阪商業大学総合経営学部教授
経済学博士　中津孝司

## アフガニスタンはテロリストの温床となる

腹が立って仕方がない。危機管理の甘さを指摘されて久しいが、アフガニスタンからの在留邦人救出劇でも失敗が繰り返された。不手際は重層的である。日本政府は猛省しているのだろうか。

米軍の撤退を背景にイスラム主義組織タリバンが支配地域を急拡大、ついに首都カブールも陥落した。米軍が熱心に訓練したアフガニスタン政府軍には祖国を守り抜く意思がなかった。大統領は尻尾を巻いて外国に逃亡した。見捨てられた民は途方に暮れている。

日本政府はタリバンが首都を包囲した瞬間に邦人退避に乗り出すべきだった。防衛大臣は東京にいたものの、外務大臣は中東歴訪中で不在だった。中東で現地情報を収集できたにもかかわらず、情報発信はなかった。中東から急遽、帰国する選択肢もあった。自衛隊派遣のタイミングが遅きに失した。自衛隊の活動範囲に関して、「法的制約」を言い訳にしてはなるまい。守るべきは法律ではない。国民の命である。

永田町は相も変わらず国際情勢に鈍感である。否、日本の政治家は総じて世界情勢に無頓着である。新型コロナウイルス対応で手が一杯で対外政策にまで回らないのでは情けない。感染症で失う命と外国での政変に巻き込まれて落とす命は「等価」である。日本政府には在留邦人の生命を守る責務がある。何よりも必要なのは指揮官の状況判断と意思決定である。

アフガニスタンに触手を伸ばした最初の大国は大英帝国だった。第一次世界大戦終戦直後の1919年に、アフガニスタンはようやく外交権を回復して独立する。ところが、60年後、ソ連邦が軍事介入し、社会主義政権へと移行する。しかし、この介入がソ連邦崩壊の導火線となる。ソ連邦の国力が急速に衰えるなか、モスクワは軍隊の撤退を余儀なくされる。その後、内戦が拡大し、群雄割拠時代へと突入する。ここで勢力を拡張したのがタリバン。米軍はタリバンを標的に空爆を実施、タリバン政権は呆気なく崩壊した。ただ、ワシントンは多額の血税を投下したけれども、アフガニスタンでは民主化政権が定着しなかった。

大英帝国、ソ連邦、米国と超大国によるアフガニスタン介入は失敗の連続だった。アフガニスタンは「鬼門」である。米軍撤退の空白を埋めるべく、ロシアや中国がアフガニスタン介入を虎視眈々と狙うだろう。アフガニスタンの大地には貴重な資源が眠る。食欲な国は資源開発に血眼となるだろう。この野心が現地との摩擦を生む。

アフガニスタン経済は対外援助によって支えられてきた。しかし、タリバンが政権の座に居座る限り、この援助は打ち切られる。タリバンを裏で操っている国はパキスタンだが、パキスタンに経済を援助する余力はない。タリバンの支配から逃れようと、多数の国民は外国を目指すだろう。優秀な人材は流出する一方となる。

テロリスト集団はタリバンだけでない。国際テロ組織「アルカイダ」やこれを母体として産声を上げたイスラム過激派組織「イスラム国（IS）」も潜む。今後、アフガニスタンはテロリストの温床となる。その資金源は麻薬。麻薬を密輸して、テロ活動の原資にする。テロリストは周辺国、特に、中国の新疆ウイグル自治区やロシアのコーカサス（カフカス）地方のイスラム勢力と結託するだろう。テロ活動は世界に拡散されていく。日本も水際戦略を徹底しなければならない。「想定外」は通用しない。

---

# 町工場を訪ねて 46

## 株式会社河内鉄工所

河内修社長

## 初代社長が旋盤1台で創業

堺は鉄砲鍛冶発祥の地として有名だが、豊臣秀吉が隆盛な時代には政権を支える首都機能を果たしていた。やがて大阪城を中心とした城下町に時の流れは移っていく。

種子島から伝来した火縄銃作りは堺から日本各地に広がり、様々な合戦の主役は刀・槍から火縄銃に代わっていった。

多くの鉄砲鍛冶職人はやがて様々なモノづくりに移行していく。ここに連綿と続く堺のモノづくりのルーツがある。

1953年（昭和28年）、初代社長・河内儀男さんが旋盤1台で創業、自転車部品メーカー・株式会社シマノの自転車部品製作からスタートしている。

訪問取材時にまず目を引いたのは、工場入口に設置された「品質管理室」だ。一般的には工場の奥に設置されている例が多いが、あえて入口に品質保証・品質管理重視のコンセプトを示している点に、製品に対する責任感の強さを感じた。キーエンス製の三次元測定機他の精密測定機器を用いて、川田昌史部長（41）以下3人で製品の品質管理を行っている。

主な製品はオフィス用のスチール家具であり、イトーキ・オカムラ・コクヨ・プラス等の大手メーカーに納入している。

工作機械を設備してプレス金型を製作、簡易金型による試作や金型のない試作・小ロット別注品にも柔軟に対応している。また、様々なパイプ材の難易度の高い曲げ加工や、TIG溶接もベテラン職人対応とロボット溶接ラインによる溶接加工に振り分けている。

レーザー加工機（2台）、プレス加工機（60～250トン、13台）、パイプ曲げ加工機（5台）、ロボット溶接機（10台）、これだけの設備があれば何でも作れる。

オリジナルの新商品を紹介しよう。コロナ禍対応の「足踏み式消毒液スタンド」（18,000円・税込）を新発売、口コミ中心で250台を売り切ったそうだ。特別仕様の「サーモセンサー付き足踏み式消毒液スタンド」（120,000円・税込）も注文に応じて製作している。他には「飛沫防止パーティション」のアクリル板を固定する「ステンレス製固定スタンド」を単価500円で発売、7万個を売り上げた。

3代目社長の河内修さん（55）は大鉄高校機械科で学び、株式会社河内鉄工所に入社した。

河内社長にモットーを聞いたところ、「河内ファミリー（従業員とその家族）を大切にしたい」。

若い人へのメッセージは「餅は餅屋という言葉がある。自分の環境・自分の道を見つけ出して欲しい」。

総勢50人弱の所帯ながら、「山椒は小粒でピリリと辛い」のごとく、存在感のある製品を創り続けていくことだろう。

（小川秀人）

河内鉄工所製・サーモセンサー付き足踏み式消毒液スタンド

**株式会社河内鉄工所**
社長　河内修
堺市堺区北庄町3丁1―17
TEL 072-221-4455

---

## 晴耕雨読

### 五輪・パラ　経済回復の種火

世界的な大役を大過なく終えた。9月5日の閉会式でパーソンズ国際パラリンピック委員会会長は「日本だからこそできた」と語った。コロナ禍で1年延期、緊急事態宣言下の無観客試合と、異例な大会だった。

閉会式のテーマは「調和のとれた不協和音」。廃プラなどでつくられたビルや木のオブジェの間を乱舞する太陽や風、蝶、花など。デジタルテクノによる光と音の中をバラバラに皆がつくっている。

五輪・パラのテーマは「違いが輝く街」だ。「ダイバーシティー（多様性、相違点）」という名の「ダイバーCity」である。五輪・パラの理念は「多様性と調和」。人種や民族、性別、言語、宗教、文化、障害の有無などの違いをお互いに認め合い、多様な考えを生かしながら社会を前に進める考え方。会社理念や経営方針でおなじみの言葉だ。

東京株式市場の9月7日の日経平均株価終値は2万9916円と活気づいた。要因は菅義偉首相の総裁選不出馬による安堵感だ。菅首相のデジタル庁開設やワクチン100万回接種などは評価できる。だが、今や13万人に迫るコロナウイルス陽性患者の自宅療養は住宅事情を考慮せず患者に「要請」するもの。生活現場をレッドゾーン化するもので許せない。国立の野戦病院建設や借り上げクルーズ船の病院船化などが欲しいところ。

自民党総裁選候補の政策関連銘柄の物色が目立つ。「脱原発」を掲げると太陽光発電やバイオマス発電など再生エネルギー関連が上昇するなど関連銘柄に物色が向かう。コロナ出口の経済政策に期待が高まる。

来春、東京市場は新市場に再編され、若手自民党議員は脱派閥の声をあげた。五輪・パラの聖火は消えたが経済回復の種火となった。燃え上がる日はそう遠くはないだろう。

2021・9・15

---

ええっ!?
環境活動して会社の業績UP??
ほんまかいな～
……もっちょい詳しく　TEL：072-991-8878
O-KES
特定非営利活動法人 グラウンドワーク八尾　大阪KES環境機構（O-KES）
詳しくはこちら→　http://www.gw-yao.com

自分史・社史出版のお手伝い
記憶は一代、記録は末代
地元八尾の出版社
だからこそできる
きめ細かな本作り
著者と編集者が二人三脚で本作り
株式会社 ドニエプル出版
TEL.072-926-5134
八尾市山本町南6-2-29
FAX.072-921-6893

株式会社 カナオカ機材
代表取締役社長　七里和昭
〒577-0033
東大阪市御厨東二―十―一
電話（〇六）六七八七―一四四〇

株式会社 摂津金属工業所
代表取締役　田中啓司

◆イタリア・アデジェ社製の最新鋭パイプレーザー加工機（写真）、ドイツ・トルンプ社製のレーザー加工機等の最新鋭設備がフル稼働。
◆パイプ材は自社工場造管設備でスピーディーに供給。パイプ材を主とした板金加工ならおまかせください。
◆店舗用陳列台・陳列金物・住宅設備品の開発・製造・販売もご相談ください。
〒578-0901
東大阪市加納4―14―12
TEL072―963―2606

お湯のいらない足湯　ゆっ太郎
持ち運びができて収納もコンパクト
株式会社 藤原電子工業
http://www.fdk-ltd.jp/
〒581-0042
八尾市南木の本二―五一
TEL（〇七二）九九一―三九二七
FAX（〇七二）九九一―三九九六
fujiwara-denshi@nyc.odn.ne.jp

明るい・楽しい・アットホームな教習所
運転免許取るならYAOKYOで！
八尾自動車教習所
八尾市高安町南七丁目二十一番地
☎（072）999―1234
HP：http://www.yaokyo.net/

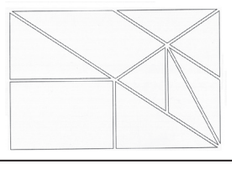
まかして安心・安全
高圧電気設備の保守点検は
大阪電気保安協同組合
八尾市太田3丁目217―11
TEL072―949―3125
TEL080―3809―7065
（担当：大澤）

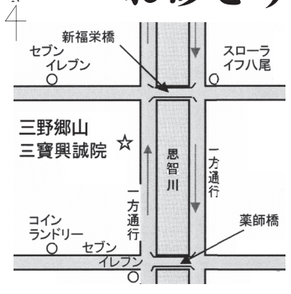
全国主要書店で発売中
気が付いたら中国大陸を38万キロ走っていた　第1巻
東　久継
長年中国とのビジネスをしてきた著者が、60歳を過ぎてトヨタ・ランドクルーザーで中国大陸を走る。約20年間で38万キロを走破。今では見ることのできない中国の風景写真をフルカラーでふんだんに掲載した渾身の記録。

B5判 135頁並製本
定価2,200円（税込み）
ドニエプル出版（TEL 072-926-5134）

社会的養護（しゃかいてきようご）を家庭で！
社会的養護とは、事情があって親元で暮らせないか暮らすことがふさわしくない子どもを社会が代わって養育することです。
特別養子縁組里親（とくべつようしえんくみさとおや）　養育里親（よういくさとおや）　季節・週末里親（きせつしゅうまつさとおや）
パパとママが欲しいな…。　一緒に暮らしてくれる家族、できるかなぁ。　時々、お泊りさせてね。
45,000人の子どもが家庭を必要としています
里親制度とは
様々な理由で親と暮らせない子どもたちを、家庭環境の下で養育することです。
日本では里親がまだまだ足りていません。
養子縁組してくれる里親さんを待ってます。
一定期間、子どもと暮らします。
施設による家庭生活体験事業です。（各地域により差があります）
NPO法人日本こども支援協会（TEL 06-6767-1130）

100文字歴史小説
独眼竜の口説き相手
作家・株式会社レブトン代表取締役　真弓創
「ウインクとは片目をつむり好意を現す仕草です」
「じゃあ隻眼のおれは天下万民にいつもウインクしてんのか。そりゃまずいな」
伊達政宗は宣教師に笑いかけた。
「おれが天下に色目を使ってるって家康にばれちまう」

“子どもから大人まで”
1人で楽しく遊べるパズル
脳の活性・開発思考力強化、ボケ防止（予防医療の一助になる）等々を目的としたパズル（9ピースで解答例195有「有料」）。
最初から解答を購入することを考えないで下さい。とことん頑張ってチャレンジしてこそ、パズルの楽しさです。
一度できた形は記録をしておくとよいでしょう。

頒価　1,200円

四国88カ所霊場の
お砂さすり場・踏み場


手では88カ所の霊場のお砂をさすっていただき、周囲を歩くことによって下に敷きつめてある88カ所のお砂を踏んでいただきます。
三野郷山 三寶興誠院
八尾市福万寺町南6―2―3
TEL 072―922―3933
MOB 090―1020―2682

## 読み返したい名作

仙台藩 お家騒動を描いた歴史小説

# 樅ノ木は残った

山本周五郎 著　新潮文庫（上）（中）737円（下）781円（税込み）

霧山文三郎（作家・日本史研究家）

本作は山本周五郎の作になる、江戸時代初期に起こった「伊達騒動」と呼ばれる仙台藩のお家騒動を描いた歴史小説である。旧来の説では、仙台藩の領地を増やそうと企む一ノ関藩主の伊達兵部に与して効き藩主の毒殺を謀ったりする仙台藩悪逆国家老の原田甲斐が、兵部の悪行を幕府に訴えた伊達安芸を評定の場で刃傷に及んだことで幕府に誅殺され、伊達藩が無事に残ったとされてきた。

しかし山本周五郎の作品は、徹底した調査に基づき、悪逆非道の兵部に味方する家老と憎まれる原田甲斐を主人公にして、言われる彼の罪状は、考えがあっての偽装工作と、幕府による捏造で、彼こそが幕府から取り潰されそうになった仙台藩を、命を投げ出して守り抜いた真の忠臣として描くことで「伊達騒動」の真相を暴くのである。

仙台藩三代藩主伊達綱宗は、降って湧いた江戸の吉原での放蕩容疑で幕府から突然隠居を申しつけられた。嫡男2歳の亀千代君が後継となる。藩内では綱宗公のお側にいた家臣たち数人が、藩主謹慎はお前たちの責任とばかりに次々に家族諸共上意討ちにされた。しかしその真実は、綱宗には覚えのない放蕩の罪を、お側に仕えた家臣たちの口を封じてでも兵部一派が捏造したのであった。

一方藩内では、幕閣酒井雅楽頭と、一ノ関藩主伊達兵部との間に、仙台藩を二分し、半分を兵部がいただくとの密約が交わされたとの噂があった。国家老原田甲斐は密約の存在を確信するものの、その裏に隠されているのは、伊達兵部ですら知らぬ酒井雅楽頭の仙台藩取り潰しの陰謀だと睨んで、それを確かめるため、伊達兵部に与すると見せかけ、兵部や雅楽頭に接近していった。

原田甲斐を慕う正義感に燃える若い侍たちは兵部の陰謀を暴こうとするが、次々に殺害されていった。甲斐は彼らを助けられない。誰にも秘した使命の重さがそれをさせなかったのだ。甲斐は周辺から白い目で見られるようになる。

作者山本周五郎は、1903年に生まれ、質店の徒弟や雑誌記者などを経て文壇に登場した。庶民の目から見た武士の苦衷、庶民の哀感を描いた作品が多い。本作以外に、主な作品として「赤ひげ診療譚」「青べか物語」「さぶ」「ながい坂」などがある。1967年63歳で死去。最終学歴は横浜の尋常小学校であった。「樅ノ木は残った」は周五郎の50代の作品だが、原田甲斐は決して逆臣でないと信じて研究を始めたのは少年時代からであったという。つまり「樅ノ木」は原田甲斐ファンであった作者のライフワークである。

さて綱宗の謹慎に伴い、兵部一派に上意討ちにされた武士たちの家族で、殺されずに逃げ果せた幼い姉弟がいて、その姉の宇乃を、甲斐は船岡の屋敷で保護していた。その宇乃を前にして、甲斐は庭にある樅の巨木について語る。「私はこの木が好きだ。この木は何も語らない」甲斐は樅ノ木に自分の生き様を重ねていた。物言わぬ樅ノ木が好きなのは、即ち君臨する側からではなく、統治される庶民の側に立って歴史を眺める作者の気持ちでもあるようだ。

さて物語は伊達安芸が兵部を幕府に上訴したことで、その評定が江戸の酒井雅楽頭の屋敷で行われることになり、一挙にクライマックスを迎える。安芸も兵部と雅楽頭の密約を知っていた。原田甲斐は安芸に憤慨した。幕府に訴える行為そのものが、仙台藩を取り潰したい幕府の謀略にはまることなのである。甲斐は密かに手に入れた酒井と兵部の密約書を表に出して幕府の陰謀を阻止しようとする。酒井雅楽頭も評定の途中で甲斐が兵部の屋敷から紛失した密約書を持参していると気づいた。これは幕府の負けである。仙台藩は残さなければならない。だったら、甲斐や安芸にはその代償を払わせるべしと雅楽頭は決断した。

最初から最後まで仙台藩の中の派閥争いが登場人物を操るのだが、それは見ようによっては、まるで企業小説である。最後の評定の場面は、ふと池井戸潤の半沢直樹の各巻のどんでん返しのラストを彷彿とさせた。

## 荘子と語る　十五

大阪府立大学名誉教授
立命館大学教授　大形　徹

# 哀駘它

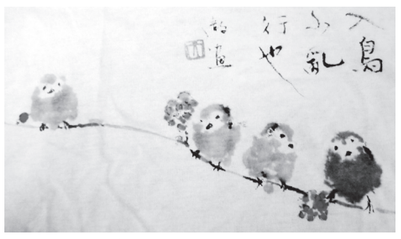
魯の哀公が孔子にたずねて言った。

「醜男の哀駘它というものがいる。男で彼とともにいるものは、彼を気に入って立ち去ることができず、女で彼を見かけたものは、父母に『人の妻となるよりは先生の妾になりたい』と言うものが十数人に止どまらない」

ところが哀駘它といえば、人の先に立って何かをやろうとしたことはなく、いつも人の言うことに合わせているだけである。君主であって人の死を救うわけではなく、金持ちで人に腹いっぱい食べさせるわけでもない。ただただ、醜さで天下を驚かせるのみである。人に合わせるばかりで自分からは何もせず、その知識はたかだか人の世のことだけ。それなのに人の男女ばかりでなく、鳥の雌雄までもが彼の前に集まってくる。召し出して会ってみると天下を驚かせるほど醜いが、数カ月もたたないうちに、人となりにひかれ、1年もたたず、信頼するようになった。たまたま宰相がおらず、国をまかせようとした。やっと応じてくれたが、ゆらゆらと流れに漂うかのようで、断ったかのようである。

かえって恥ずかしくなり、ついに国を授けた。ところがまもなく、どこかへ去ってしまった。そのことを憂い、大切なものを失ったようで、この国をともに楽しく治めていく相手がいなくなってしまったのだ。

**※外見と内面の徳の話。国を授けられても、どこかへ立ち去ってしまったという。**


鳥の雌雄までもが哀駘它の前に集まってくる

近鉄文化サロン上本町で「荘子を読む」開講中

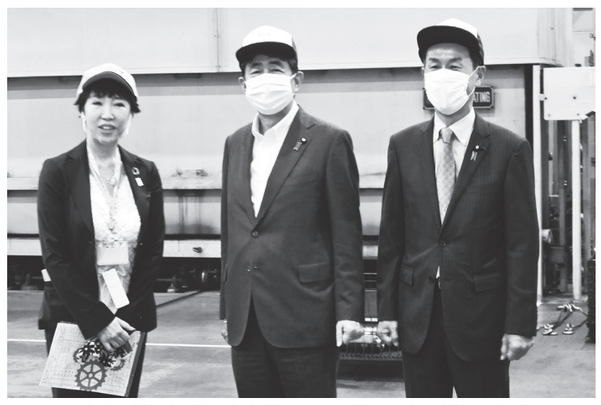
# 安倍晋三前首相

## 富士電子工業株式会社を見学

8月23日、前内閣総理大臣の安倍晋三氏（66）が八尾市を訪れ、各所を見学した。長尾敬衆議院議員（58）が同行。

まずは「みせるばやお」（八尾市光町2―60、リノアス8F）を訪れ、若手経営者と交流。その後、富士電子工業株式会社（渡邊弘子社長、八尾市老原6―17）へ。高周波誘導加熱（IH）を利用した熱処理設備の製造販売が同社の主な事業。2016年に経済産業省の「新・ダイバーシティ経営企業100選」に選定された。

社内現場を回りながら、安倍氏は渡邊社長の説明を熱心に聞いていた。


左から渡邊弘子社長、安倍晋三氏、長尾敬氏

コロナ禍においても奮闘し、成長し続ける同社の躍進に感心していた。

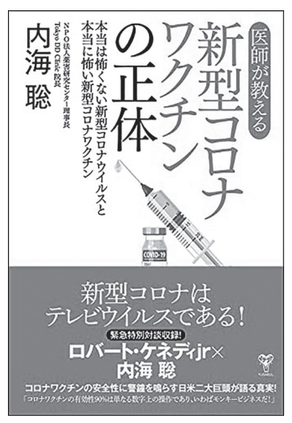
渡邊社長は一般社団法人ものづくりなでしこの代表理事も務める。ものづくりを行う女性経営者の全国的な会で、「女性のしなやかな強さで、日本のものづくり業界の発展に寄与すること」を目的としている。（植村眞一）

## コロナ禍で話題の本

編集委員　石河亮平

**医師が教える 新型コロナワクチンの正体**
**本当は怖くない新型コロナウイルスと本当に怖い新型コロナワクチン**

内海　聡 著　ユサブル　1、540円（税込み）




2度目の秋を迎えるコロナ禍。感染力の強い「デルタ株」が支配するなか、欧米ではワクチン接種の義務化や接種証明提示などが定着し始めた。日本では4回目の緊急事態宣言が21都道府県に広がっている。

8月から、子どもたちの感染が加速し、陽性者の自宅療養者が急増中。野戦病院の設置や接種後感染（「ブレークスルー感染」）、3回接種、国産治療薬、ワクチンパスポート、新変異ミュー株、宣言再延長など注目を集めている。

ウイルスについてはエビデンスも多くなり「怖くない」部類に入ったようだ。コロナワクチンは全く新しい「遺伝子合成技術」により生産されるため「遺伝子操作」とか「マイクロチップ」「不妊の可能性」「人体実験」などの作り話が社会問題化。その意味で「本当に怖い」のは誤情報やデマに包まれた新型コロナワクチンだろう。本書はメディアに氾濫するデマなどについて「非科学的解釈を冷静に見て判断してほしい」との願いから執筆された。そのため一般向けに専門用語を少なくし、「そもそも」や「なぜ」を意識して書いたことがよく表れている。

～・～・～

本書には刺激的な惹句が目立つ。著者は「大手メディアの報道を無条件に信じている人には衝撃的な内容」という。例えば「PCR検査が信用できない理由」「コロナワクチンが危険である理由」などはデータ（文献）や客観的事実を示して納得させる。信じられなくとも、受け止め方は「読者におまかせ」だ。つまり自分の頭で判断せよが基本的態度である。

新型コロナ騒動は「御用学者」や素人コメンテーター、SNSによる「狂った茶番」だと辟易する著者。なぜ、こんな狂った状況になったのか。想像し推測してほしいと訴え、「基本や初歩」を重視しろという。そして「こんな世界を次世代にどうやって顔向けできるのでしょうか」と問いかける。

ウイルスには大きく分けてDNAウイルスとRNAウイルスがある。コロナウイルスはRNAに分類され分子構造が非常に不安定で壊れやすいという特徴がある。

そのためコロナウイルスはもともとから変異しやすい。「今さら変異種が怖いというのは間違いで、昔から変異だらけ」だから「怖くない」のだ。新型コロナワクチンは従来のワクチン開発と比べると短期間過ぎるので不安や危険を感じるのは当然だろう。従来は培養した細胞や動物実験、実際に人間に投与する臨床試験などのプロセスを経て、5～10年かけてつくられていた。

新型コロナワクチンは各社とも1年足らずで、遺伝子合成という新技術の導入だから慎重に時間をかけねばならないのではないか、と指摘する。こうした違和感から人体実験による孤独感から若者の自殺者急増などを危惧する。

混乱の元凶は厚生労働省だとして「自粛の必要性について、その科学的根拠を示すべき」。

また、新型コロナウイルスの存在を示す根拠となる科学的論文を示すべき」と要求している。

巻末のロバート・ケネディ・ジュニアとの緊急特別対談は貴重な内容だ。同氏からはアメリカにおける新型コロナ騒動や新型コロナワクチン開発の実態について、内海聡氏からは医学的に見た新型コロナワクチンの問題点を提示して意見交換、意見の一致を見せている。

最後に、本書は多角的に述べられているが情報カオスの中「何が真実なのか」を考え、追いかける大切さを教えてくれる。日本人が新聞、雑誌、TV等を信じている割合は、欧米諸国と比べて特に高い。マスコミがコロナウイルス騒動を助長することから「テレビウイルス」などと揶揄される。デマや危険性などを「うのみ」にすることなく、本能的に動物的に感知する能力を養ってくれる指南書だ。

## 笑える税金教室　21

税理士　上西　知

# 言いたい放題税制改正

コロナ禍で将来に不安を抱える昨今。今日は一国民として勝手に税制を考えてみたい。

まず、消費税のインボイス制度は廃止。そもそも売上が1千万円に満たなければ免税業者として消費税は支払わなくて良かったのが間違い。これは政治的な要素が絡んでいたと思う。全員にすると反対されるから的な。売上を1千万円にするところが既に不公平。卸売業者で1千万円を下回ることはないと思う。それを業種一律1千万円にしたがために、やれインボイスだということで、免税事業者が課税事業者を選択せざるを得なくなっていて、ややこしい手続きを調べる手間がかかり、取引先との折衝になるケースも出てくるだろう。商売を阻害していると言える。これは、まずいと思う。そもそも、消費税が本当に必要なのか？　考える必要がある。消費動向で10％は大きいと思うのは私だけだろうか。

今年の税制改正でもデジタルトランスフォーメーションということで、進むIT化を後押しするのは分かる。しかし、企業はそんなことは百も承知で、合理化を計るために日夜情報を集めまくっていると思う。そこに設備投資を促進する税制を入れなくても、利益率が向上するはずだから税制の後押しは、さほどいらないと思う。むしろ世界人口が増え続けていて、食糧問題や、食の安全は人間の生命の根幹にかかわることだから、そちらに施策をいれるべし。農業促進税制と食の安全税制だ。安全な食べ物を作るのにはコストがかかるだろう。農薬を大量に使い人件費を抑えて、利益を確保する様になっていないだろうか。日本国民にとって、最も大切なことは良食の確保だ。

それが病気を減らし、医療費の削減につながらないだろうか。

## 大自然と人間

寄稿　戸田仁司

### 「窓の外、織り成す変化と自然界」

私は10年以上前からマンションの3階で住まいをしています。3階という所は窓の外を眺めますと、太陽・大空・雲・空気と水のほか、地上の内外等、自然界の動き、そして下を通る人間の幼児・子ども・大人の男女の成長過程がおもしろい程掴め、観察できます。そして自然界の驚嘆の意味を再考できます。もしマンションの5階、6階で住まいをしていましたら、恐らくこれらの観察はできていなかったと思っています。ほとんどの人は大自然の現象、毎日の変化に気づいていなく、関心のないのが現状ではないでしょうか。これらの内容を以前から観察記入して文章にする思いはありましたが、神・天・宇宙・自然の創造された働きをその原理原則を私は関知できません。文章にできず今日に至っています。私が気づいた自然現象はわずかですが、列記します。原因結果を解明いただければ幸いです。人類は皆この恩恵を受けて生かされて今日があることを確信しています。

1、まず春先になれば一地域に桜は一斉に満開になり咲きます。一時期を過ぎれば桜の花は一斉に散ります。各桜の木は土も太陽の光も場所も桜の生存年月も全部異なります。なぜ一斉に散るのでしょうか。

2、どこかの情報を見て手帳に控えていました。

▼宇宙が誕生したのは138億年前
▼地球が生まれたのが46億年前
▼生命が生まれたのが38億年前
▼人類が現れたのが200万年前

どうしてこういう数字が出たのでしょうか。その根拠は私には分かりません。教えて下さい。

3、地球の1日の行程は朝昼晩、朝は真っ暗から明るくなっていきます。時間は誰も捉え得ることはできません。30分～1時間くらい別の場所にいて改めてその場所を見れば前より明るく暗くなっていることが把握できます。昼は明るく夜になれば暗くなります。どういう現象でこうなるのでしょうか。何冊か本を調べましたが、この回答は見当たりませんでした。（会社役員）

# 黒田斗真さん

## K―1 WORLD GP 2021 K―1バンタム級日本最強決定トーナメント

## 優勝に輝く

八尾市在住の黒田斗真さん（20）が、5月30日K―1 WORLD GP 2021 K―1バンタム級日本最強決定トーナメント優勝に輝いた。ここに至るまでの道のりは長く険しいものだった。

小学2年生から2つ上の兄と少林寺拳法を習う。父親に強く勧められて始めた。小学3年生になって、兄と一緒に隆拳塾（宍戸一郎塾長）に入り、キックボクシングを本格的に始める。早朝から走り込みをするほど、一生懸命だった。

ところが、中学に入学し間もなくして喧嘩で相手を失明させてしまった。宍戸塾長から叱責を受け、破門された。そうなると、もうどの道場も受け入れてくれない。自暴自棄になった黒田さんは13歳で一時保護所へ、14歳で鑑別所に2回入ることに。さらに、少年院へ。

少年院にいた1年間、これからの人生を考えに考えた。そんなとき、兄から一通の手紙をもらった。「もう一度、兄弟2人で格闘技をしたい」。

手紙を握り締めながら人生を立て直そうと決意を固めた。「自分には格闘技しかない」と改めて考え、K―1の頂上を目指そうと目標を定めた。

16歳で少年院を出て日本商運株式会社（八尾市青山町1―6―5）に入社した。同社の田中康正社長（55）は保護司。大阪府協力雇用主会連合会会長および八尾地区協力雇用主会会長も務めており、更生活動に命を懸ける人物だ。

仕事をしながら通信制高校で勉強に励む黒田さん。ある日、宍戸塾長の許しが出て、破門を解かれた。すべての歯車がうまく回り出す。

田中社長のアドバイスに従いBBS指導員として、ボクシングを教えることに。皆がどんどん自分についてきてくれるのを見ているうちに、心が満たされる。居場所があること、出番があることの喜びを噛みしめた。

18歳で高校を卒業すると同時に同社を退職し、本格的にK―1選手への道に進む。宍戸塾長は隆拳塾を閉じ、新たにジムを開いていたので、ここに入り新しい道を切り開くことに。選手としてだけでなく、トレーナーとしても活躍する。

19歳のとき、元チャンピオンに惜敗。悔しくて悔しくて、自分が許せない。絶対に負けないと誓いを立て、1日5、6時間の練習を始め、1日たりとも休まず継続する。その結果、K―1 WORLD GP 2021 K―1バンタム級日本最強決定トーナメント優勝を手にする。

次の夢は、コロナ禍後に行われるK―1世界トーナメントで優勝を果たし、誰も手が届かない存在になることだ。

「どん底にいても決してあきらめずに努力していれば、必ず報われます」と話す黒田さんの横顔は輝いていた。

田中康正社長（左）と黒田斗真さん

八尾市文化会館
**プリズムホール大規模改修工事に伴う休館のお知らせ**
ご利用のみなさまにはご不便をおかけしますが、
ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。
【改修工事の期間】令和3年4月1日（木）～令和4年7月末
お問い合わせ等
改修工事に関するお問い合わせ　：八尾市文化国際課　072-924-3909
施設利用などに関するお問い合わせ：プリズムホールお客様窓口　072-924-5111